

講義ユニット名	ウイルス学	所属科目名	生体反応学
講義ユニット 責任者	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学
講義ユニット コーディネーター	さかぐち たけまさ 坂口 剛正	所属	ウイルス学
授業方法	主として講義形式でおこなう。演習として、小テスト、アンケートなどを行うことがある。実験を中心とした実習を行う。		
概要	ウイルス学は微生物学の一分野である。ウイルスはヒトに多くの病気をおこし、臨床的にも問題となる。本ユニットの講義・実習では、ウイルスの性質、増殖機構を理解し、さらにウイルスが引き起こす病気及びその予防と治療についての知識を習得する。		
講義ユニットの 到達目標	<p>ウイルス粒子の構造を図示し、各部の機能を説明できる。</p> <p>構造と性状によりウイルスを分類できる。</p> <p>デオキシリボ核酸<DNA>ゲノムとリボ核酸<RNA>ゲノムの複製・転写を一般化し、説明できる。</p> <p>ウイルスの吸着、侵入、複製、成熟と放出の各過程を説明できる。</p> <p>ウイルス感染細胞に起こる変化を説明できる。</p> <p>ウイルス感染の種特異性、組織特異性と病原性を説明できる。</p> <p>主な感染様式の具体例を説明できる。</p> <p>ウイルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。</p> <p>ワクチンによるウイルス感染症予防の原理を説明できる。</p> <p>ワクチンの種類と問題点を説明できる。</p> <p>主なデオキシリボ核酸<DNA>ウイルス（サイトメガロウイルス(cytomegalovirus <CMV>)、Epstein-Barr <EB>ウイルス、アデノウイルス、パルボウイルスB19、ヒトヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルス、ヒトパピローマウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>主なりボ核酸<RNA>ウイルス（インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、ムンプスウイルス、風疹ウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコー(enteric cytopathic human orphan <ECHO>)ウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス）が引き起こす疾患名を列挙できる。</p> <p>レトロウイルス(ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus <HIV>)の特性と一般ゲノム構造を説明し、分類できる。</p>		
講義日程	別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	講義・演習においては、出席を試験の受験要件に含めない。実習においては全ての出席を単位認定の要件とする。本試験を事前の連絡なしに理由なく欠席した場合には当該年度の受験を認めない。		
評価項目	到達目標の達成度（基本的理解と知識の応用） 少なくとも「コアカリキュラム程度の理解」「4年生のCBTをパスするレベル」を満たすことを評価の合否レベルとする。		
評価法	試験はマークシート形式と記述形式の併用で試験を行う。本試験における合格基準点は基本的に60点とするが、得点の分布等を参考にして変更することがある。		
推奨参考書	<p>シンプル微生物学 改訂第6版 南江堂 小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編 (2018)</p> <p>標準微生物学 第14版 医学書院 神谷茂・錫谷達夫・松本哲哉編 (2021)</p>		